



平成 29 年 11 月 13 日

各 位

会社名 オーウイル株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 小口英器
(東証第二部 コード番号: 3143)
問合せ先 取締役管理副本部長 青柳あゆみ
(TEL. 03-5772-4488)

平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異、
平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の個別業績と前年実績値との差異および
平成 30 年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 5 月 12 日に公表した平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想と、本日公表の実績において差異が生じました。また、個別業績と前年実績値においても差異が生じたので、それぞれお知らせいたします。

また、最近の業績動向等を踏まえ、平成 29 年 5 月 12 日に公表した平成 30 年 3 月期通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 15,688	百万円 168	百万円 168	百万円 112	円 銭 35.74
実績値 (B)	16,220	314	304	218	69.26
増減額 (B - A)	532	146	136	105	—
増減率 (%)	3.4	86.8	80.8	93.7	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	14,742	215	211	144	46.00

(差異の理由)

平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績につきましては、飲料業界において、夏季の天候不順の影響があったものの総じて順調であり、当社の卸売事業においても業務用副原料・殺菌乳や無糖飲料に使用する茶葉、野菜飲料の原料である野菜・果汁等の販売が伸長し、当初予想を上回る結果となりました。また、輸出においては欧州向け経皮吸収剤の新規案件が成約し、こちらも業績に寄与いたしました。加えて、コスト削減に注力し、販売管理費が低く抑えられたことから、利益面において業績を大きく上回ることであります。

2. 平成30年3月期第2四半期累計期間の個別業績と前年実績値との差異（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前期（平成29年3月期 第2四半期）実績値（A）	百万円 14,311	百万円 158	百万円 158	百万円 104	円 銭 33.03
当期（平成30年3月期 第2四半期）実績値（B）	16,076	312	305	206	65.67
増減額（B－A）	1,764	154	146	102	－
増減率（％）	12.3	97.4	92.3	98.9	－

（差異の理由）

卸売事業において、業務用副原料・殺菌乳の販売が増加し、烏龍茶をはじめとする茶類や野菜飲料の原料である果汁などの農産物同加工品の販売が好調に推移した結果、売上高、利益ともに前年実績値を上回りました。

3. 平成30年3月期通期連結業績予想の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 30,000	百万円 341	百万円 341	百万円 220	円 銭 69.84
今回修正予想（B）	30,000	430	430	280	88.89
増減額（B－A）	0	88	88	60	－
増減率（％）	0.0	25.8	25.8	27.3	－
（ご参考） 前期実績	28,121	326	331	202	64.34

（修正の理由）

通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の連結業績が利益面において計画を上回って推移したことに加え、第3四半期以降の販売見込み及びコスト削減等を考慮し、上記の通り修正いたします。

※業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

以上